

# 論文内容要約

論文題目

がんサバイバーに対する健康管理-山形県コホート研究（高島）-

責任講座：臨床腫瘍学講座

氏名：中村 翔

## 【要約】

**背景および目的：**がん罹患の増加と死亡率の低下などに起因して、がんサバイバーの数は増加傾向にあるが、がんサバイバーに特異的な健康管理が必要か否かに関する知見、さらに、必要な場合、どのような配慮が必要かに関する知見は限られている。しかしながら、がんに罹ったことのある人は罹ったことのない集団と比較すると、併存疾患を有することによる予後への影響はより大きいと考えられるため、がんサバイバーに対してがんの既往がない人と同様の健康管理・指導で十分か、あるいは特異的な管理・指導が必要か否を明らかにする必要がある。本研究の目的は、山形県コホート研究（高島）を用いて、がんサバイバーと、がんの既往のない協力者とを比較することで、がんサバイバーの生活習慣病のリスクや、それに対する生活習慣の影響を明らかにすることである。

**方法：**山形県コホート研究（高島）のベースライン調査が2004年から2006年にかけて、合計で3,522名に対して施行され、そのうち2,922名を対象とした。2011年までに二次調査が行われ、最終的には2,116名の転帰を解析した。ベースライン調査時の協力者の特徴と生活習慣病のリスクを、がんサバイバーと、がんの既往のない協力者とで比較した。

**結果：**がんサバイバーは合計124名で男性57名、女性67名だった。がんの既往のない協力者は2,168名で男性939名、女性1,229名だった。これらの群間でいくつかの生活習慣や栄養摂取量に統計学的に有意な差を認めたが、喫煙状況では群間の差を認めなかった ( $P = 0.30$ )。単変量ロジスティック回帰分析で、がんサバイバーは死亡（オッズ比 [odds ratio; OR] 2.05, 95%信頼区間 [confidence interval; CI] 1.07-3.95）と心臓病（OR 2.60, 95% CI 1.06-6.39）のリスクが高いことが示唆された。喫煙関連癌のがんサバイバーでは、二次発がんのリスクも高かった（OR 2.26, 95% CI 1.01-5.06）。交絡因子を考慮して調整したロジスティック回帰分析においても、喫煙関連癌のがんサバイバーでは、心臓病のリスクが高かった（OR 2.95, 95% CI 1.05-8.26,  $P = 0.04$ ）。

**結論：**これらの結果から、がんサバイバーには特異的な生活習慣指導が必要であることが示唆された。特にがんサバイバーとなってからも、喫煙を継続していると二次発がんのリスクが高くなる可能性がある。さらに、がんサバイバーであること自体が心臓病のリスクであるため、これを念頭においた健康管理が必要である。